

小学校第1学年 生活科 学習指導案

期 日 平成28年2月19日(金) 第3校時
場 所 山鹿市立山鹿小学校 1年1組教室
指導者 教諭 山本 直子

1 単元名

「もうすぐ2年生」(教育出版上)

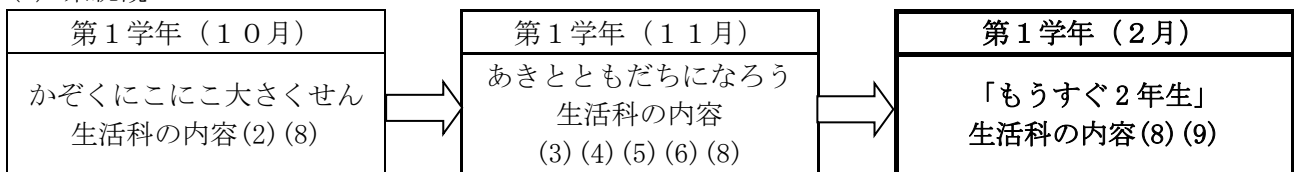
2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の内容(9)「自分の成長」(8)生活や出来事の交流、具体的な視点「イ身近な人々への接し方」「コ 成長への喜び」に重点を置き設定した。1年生の終わりという節目に、入学してからの出来事を振り返り、「文字が書けるようになった」「友達の応援で縄跳びが跳べるようになった」など自分の成長が実感できること。また、その成長を支えてくれた多くの人々に感謝の気持ちを持ち、これからの自分の生活へ期待を持って意欲的に生活できるようになることをねらっている。

本単元では、1年間を振り返る活動を行ったり、新1年生(年長児)や6年生と交流したり、自分の成長を表現したりする場面を設定することにより、「成長した自分」「これからも成長していく自分」を実感するとともに、未来に向けた可能性に気づき、意欲と自信を持って生活しようとする態度を育てたい。

(2) 系統観



(3) 児童観

- 本学級は、男子17名、女子16名、計33名である。2年生に学校を案内してもらった後、もっと探検したいという子どものつぶやきから、グループで探検したいところについて話し合い探検を行ったり、公園に出かけ、夏の遊びを楽しんだり生活科の学習を好む児童が多く、積極的に活動をしている。
- あさがおを育てる中で、蔓が伸び始めたことに気付いた子どもたちが、この後どうしたらいいかこれまでの経験を出し合いながら支柱を立てることに気付いていたり、観察をする中で、見る角度を変えながら観察し、ある子が「○○みたい。」と言うと、また別の子が違う表現で言い換えたりと友達の意見を受け入れながら自分なりの考えを持とうとする児童も少なくない。
- 平仮名が未定着の児童が3人いるため、言葉を書き入れる際は個別の支援が必要である。
- グループごとに学習したことを表現する活動を好む児童は多い。しかし、グループの中で中心となって話を進める児童の意見で活動が流れてしまうことも少なくない。
- 「家族にこにこ大作戦」で家族について学習した際には、家の仕事を体験したり「家族にこにこ大作戦」を行ったりしたことで、家族の自分に対する思いを知り感謝の気持ちを持つことができた。その後、自分のことを自分でしたり進んで家の仕事をしたりすることが話題になるが、個人差がある。
- 「あきとともにだち」では、集めた秋の物を使って山小フェスタで家族と一緒に作りたいものを作ったり、その準備等も進んで行い、進んで声をかけ笑顔で活動したりする児童の姿が多く見られた。しかし、初めての体験ということもあり、楽しむ気持ちはあっても戸惑いが大きい児童もいた。
- 学習したことを自分なりの表現方法で表す活動を好み、作文、絵日記、紙芝居、クイズなどで表すことができる。表したことに教師や友達が問いかけることで考えを深めていく活動では、楽しく友達に質問することができる。
- 教師や保護者は、この1年間児童が新しい環境の中いろいろな体験を重ね心も体も非常に成長したことを感じている。しかし、その成長を実感している児童は少ない。

(4) 指導観

- 活動のねらいや内容を保護者に伝え、連携しながら活動を進めていくようにする。また、単元の終末には、家族から成長を喜ぶ言葉やメッセージの手紙をもらうことで、自分の成長を実感できるようにする。
- 子どもたちが自分の成長に気付くのを助けるために、年長児、幼稚園の先生等の手紙やメッセージを活用する。また、子どもたち自身が、自分の成長にかかわった人に手紙を書くことで、感謝の気持ちを持てるようにする。
- 「大きくなったね！ぼく・わたし」を作り、できるようになったことを絵と文で表すことにより、視覚的にとらえやすくし、友達との意見交換も行い成長を実感できるようにする。
- 新1年生(年長児)との交流活動を行うことで、1年前の自分を思い出し、成長した自分に気付くことができるようにする。また、自分より年下の人との交流により、言葉を選んだり我慢をしたり譲ったりする経験をし、その経験を振り返り交流したりまとめたりすることで、自分の成長に気付かせたい。
- 6年生と交流活動を行うことにより、自分の成長を支えてくれた人の存在を知り、感謝の気持ちを伝えることの大切さに気付くようにする。
- 1年間の思い出を振り返る活動を通して、その中で成長してきた自分を見つけることができるようにしたい。がんばったことやできるようになったことを考えることで、入学時の自分と今の自分の比較をしやすくする。そのために、初めて書いた文字や絵、作文、生活科のカード、写真など、成長を実感できる資料を準備する。その際「できるようになった」という事実に加え、どんな気持ちだったかなど、悔しさ、喜びや悲しみなどの気持ちも思い出しながら考えることが学習の深まりにつながると考える。
- 相手意識・目的意識を明確にした課題「1年かんのできごとをまとめ、しん1年生とくふうしてあそんだり、お世話になった人たちへかんしゃのきもちをあらわしたりしましょう。そして、できるようになったことやがんばったことを、ともだちやおうちの人におしえましょう。」を提示し、意欲を高め実践を工夫したり継続したり広げたりすることができるようにする。また、自分のことは自分でできるようになることが家族の喜びであることに気付かせ生活上の自立の視点も加えたい。
- 新1年生や6年生のためにしてあげたいことを考えて計画を立てたり、1年間でできるようになったことをまとめて紹介したりすることで、より自分の成長に気付き、2年生への期待が高まるようにする。

【視点1】学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動	【視点2】学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	【視点3】学びを支える 学びのUD化と 効果的なICTの活用
【視点1】 ○児童が驚きや発見を伴う教材提示や問いを工夫し、子どもの問いを引き出し、その問いからスタートする探究的な学習過程をデザインする。 ○相手意識・目的意識を明確にした言語活動を繰り返し位置付けることで、学習意欲を高め、子どもの多様な考えを引き出したり深めたりできるようにする。	【視点2】 ○自分の考えを明確に持たせ、体験活動と振り返りを繰り返し位置付けて気付きを促し、他者と協働する中で、より高められるようにする。 ○児童の思いが見え、自分自身への気付きが生まれるような振り返りを工夫する。 ○児童の思考が深まるような言葉かけをし、さらに考えたことを学習シートに書き加えたり色を付けたりすることができるようにする。	【視点3】 ○児童が自ら気付いたりより思考が深まったりするように、共感的な言葉かけや意味付け、価値付けにつながる言葉かけをする。 ○振り返り表現する場面や伝え合い交流する場において、教師や児童が効果的にICTを活用することにより、一人一人の気付きを質的に高め、共有できるようにする。 ○考え方(思考ツール)の習得を図る。(比べる、見つける、たとえる)

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

- ・事前に児童一人一人の家庭環境(家族構成や家庭の事情等)を十分に把握しておき、たのしく学習できるように言葉かけなどに配慮する。
- ・家族を狭義でとらえず、いろいろな家族形態があることを配慮して学習を進める。
- ・家庭での活動が多くなるので、事前に連絡を取り、学習のねらいや単元全体の流れを知らせるとともに、十分な活動時間を確保したり、学習カードを工夫したりして、活動の手助けとなるようにする。
- ・児童が、学習の見通しを持てるように単元全体や1時間の流れを示す。

【合理的配慮】

(省略)

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価基準設定例」）

単元の目標	1年間を振り返ったり、新1年生と交流したりすることを通して、「できるようになった」「役割が増えた」など自分自身の成長に気づき、これまでの成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持つとともに、2年生への期待をふくらませることができるようにする。
生活への 関心・意欲・態度	①1年間の出来事やがんばったこと、できるようになったことなどを思い出し、自分の成長を振り返ろうとしている。 ②6年生を送り出したり新1年生を迎えたりするための準備を通して、2年生への期待を持って意欲的に生活しようとしている。
活動や体験について の思考・表現	①入学してからのことを振り返り、自分のことや友達のこと、自分ができるようになったことを考え、言葉や絵で表現することができる。 ②新しい1年生を迎えたり6年生へ感謝の気持ちを伝えたりする話し合いや準備を通して、自分の成長に希望を持ち、これからの生活について考えている。 ③自分の成長を支えてくれた人に対して感謝の気持ちを持ち、それを多様な方法で表現することができる。
身近な環境や自分について の気づき	①1年間を通してがんばったことや自分でできるようになったことが増えたことなどが分かり、自分のよさや可能性に気付いている。 ②新1年生に教えることができるようになったり、6年生を喜ばせたりすることができた自分の成長に気付いている。

4 指導・評価の計画（14時間取扱い 本時 7/14）

小単元	過程	時	学習活動	指導上の留意点 【3つの視点から】	評価の観点（評価方法） 評価基準（B基準）
ここらにのこったことはな	出会い	1	○写真や作品、簡単な年表などの資料を見ながら、入学してからのことを思い出し、「思い出大しゅうごうカード」をつくる。	【視点2】友達との伝え合い ・写真や今までの作品を見ながら、思ったことを話したり友達の言ったことを聞いたりすることで、具体的に思い出すことができるようにする。	気付き①（学習シート・発表） 1年生になり、楽しかったことやがんばったことなどたくさんあることに気付いている。
	イメージ化	1	【単元を貫く「問い」】 1年かんのできごとをまとめ、しん1年生とくふうしてあそんだり、お世話になった人たちへかんしゃのきもちをあらわしたりしましょう。そして、できるようになったことやがんばったことを、ともだちやおうちの人におしえましょう。		
なにをおしえようかな	試しの体験	1	○できるようになったことやがんばったことを振り返ったり、新1年生やこれまでお世話になった人たちと交流したりすることを知り、学習計画を立てる。	・前時に学習した際の掲示やシートを提示し、自分の成長を振り返り易くする。 ・常に目的を持って、試しの体験や本格的な体験ができるように学習計画を立てる。	思考・表現①（学習シート、発表） 1年間の出来事を振り返り、自分や友達ができるようになったことやがんばったことは何か考えている。
		2	〈試しの体験①〉 ○「がんばったね！できるようになったね！」シートに1年間でできるようになったことを付箋に書いて貼る。 ○自慢大会をする。	【視点3】教師の言葉かけ ・「どうやって？」「どんな気持ち？」など、問いかけ共感することで、児童の思考が深まるようにする。「～と違って」「～に似ていて」等比較し考えている意見はとりあげて広げる。 【視点2】友達との伝え合い ・家に持って帰り、できるようになったことを家族から聞き取り、考えを深めることができるようにする ・友達同士で交流し、さらに、自分の成長を発見する。	関・意・態①（発表・学習シート） 入学してからできるようになったことやがんばったことを思い出している。 思考・表現①（発表・学習シート） できるようになったことやがんばったことを考えて、友達に伝えている。
		3	〈試しの体験②〉 ○新1年生との交流で、どんなことをしてあげたか話し合う。 ○新1年生と交流する。 ○新1年生との交流で気付いたことをシートに書き友達と交流する。	・1日体験入学で新1年生と交流し、1年前の自分たちの様子を思い出す。 ★交流の準備は、特別活動の時間に行う。（1時間） 【視点3】学習シートの工夫 ・新1年生と交流して思ったことや気付きをシートに書き、友達と交流する。	関・意・態②（発表・学習シート） 新1年生と楽しく交流しようとしている。

情報加工(情報収集)	2 (本時1/2)	○「卒業する6年生もにこにこ大きくせん」の計画を立てる。 ○自分で考えたことを基に、6年生と交流する内容をグループで考える。	【視点1】相手意識・目的意識を明確にした言語活動 ・自分の経験やインタビューでの気付きをもとに、目的意識を持って交流の方法を考えることができるようにする。 【視点3】ICTの活用 ・6年生や先生方からの1年生に関するインタビュー映像などを見て、自分がどんなことをしたらもうすぐ卒業を控えた6年生に感謝の気持ちを伝えられるか、安心して卒業してもらえるか考えることができるようにする。	思考・表現②(行動、学習シート) 6年生にお世話をしてもらったことを思い出したり、先生の話の聞いたりしたこと、何をしてあげたいか考えている。 気付き②(シート、発表) 6年生にお世話になったことがたくさんあることに気付いている。
	3	(本格的な体験) ○6年生と交流するための準備をする。 ○お世話になった6年生のために「ありがとう大きくせん」で、6年生と交流する。	・6年生への感謝の気持ちが伝わるように伝え方や言葉を考えるようにする。	関・意・態②(観察) 6年生と交流するために準備をしている。 思考・表現②(行動) 自分たちのグループの6年生に感謝の気持ちを伝えたり楽しく遊んだりしている。
	2	○できるようになったことや新1年生・6年生と交流して気づいたことなどをどんな方法で伝えるか考える。 ○発表内容を友達と聞き合い、より伝わるようにアドバイスする。	【視点2】学びの振り返り ・今までの経験を思い出し、自分の表しやすい表現方法を選び、発表の準備をする。 ★国語科との関連を図り、できるようになったことと2年生に向けて頑張りたいことを1分間スピーチとして授業参観で発表することを伝える。 【視点1】相手意識を明確にした言語活動 ・どうしたら友達に分かりやすく発表できるか、表現方法を工夫できるようにする。 【視点2】友達との伝え合い ・授業参観で保護者に向けて発表する際、児童が共に聞き合い、質問やアドバイスし、お互いの思いを引き出し合えるようにする。 【視点3】教師の言葉かけ ・児童の気付きが発表の中に表れなかった場合には、教師がそのことについて問いかけながら、自分の言葉で表現できるようにする。	思考・表現③(発表) 楽しかったことや友達や自分のよさを絵や文で表し、友達と伝え合っている。 気付き②(シート、発表) 自分なりに工夫をして新1年生に伝えることができるようになったことや6年生に感謝の気持ちを伝えられるようになったことに気付いている。 気付き①(自己評価カード、発言) 活動を通して自分のよさや心の成長、自分の存在など自分自身への気付きを話したり自己評価カードに書いていたりしている。

(時間外) イメージ化で子どもたちが支えてもらったと考えている人たちにメッセージカードを書く。

5 本時の学習

(1) 目標

もうすぐ卒業する6年生にお世話になった感謝の気持ちを表すにはどうしたらいいか話し合い、6年生のために自分ができる交流の計画を立てることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 10分	1 これまでの6年生との関わりを振り返る。	○これまでの6年生との関わりを写真等で振り返らせ、色々な面で支えてもらっていたことに気付かせる。 ○メッセージ内容を簡単にまとめ板書し、次の活動につなげる。 徹底指導 (ポイント) ◎新1年生と6年生との交流の違いを考えさせ、それぞれの交流の目的を明確にする。 ・イメージ化での気づきを活かし、本時の活動へつなげるようにする。 ・これまでの写真や6年生からのビデオメッセージを映し出すことで、振り返りやすくする。	写真 ビデオメッセージ映像
展開 25分	2 本時のめあてを知る。	お世話になった6年生のために「ありがとう大きくせん」のけいかくをたてよ。 6年生が、1年生は「もう大丈夫」と思って、卒業してもらうには、どんな交流をしたらいいか、友達と意見交換をして考えよう。	
	3 どうしたら6年生が「もう大丈夫」と思うのか考える。 (1) ひとりで (2) ふたりで (3) みんなで 【言語活動】(設定の意図) 「6年生がにこにこになり、安心して卒業できる」という視点により、ペアや全体で考えを交流することで、多様性のある計画が立てられるようにする。	能動型学習 (ポイント) ◎ペアや全体で伝え合い交流する際に、視点を示したり共感的な言葉かけを行ったりすることで、活発な意見交換ができるようにする。 ・共感的な言葉かけ ・～と思ったんだね。(繰り返し) ・それは～ということなんだね。(言い換え) ・どうしてそう思ったのかな。(質問) など ○子どもたちから出された考えを短冊に書き、キーワードごとに整理することで、次の活動につなげる。	短冊
整理 10分	4 お世話になった6年生のために「ありがとう大きくせん」の計画を立てる。 (1) 計画を立てる。 (2) 発表する。	評価：思考・表現(学習シート・発表) B基準 自分でできることや6年生が喜ぶことを見つけ、作戦の計画を立てている。 A基準 B基準に加え、6年生の思いやこれまでの関わりを考えながら、工夫して作戦の計画を立てている。 〈B基準に達していない児童(生徒)への手立て〉 「何をしたら6年生が喜んでもらえるか」等の問いかけをしながら児童の思いを引き出していく。 ○工夫して計画を立てている児童の内容は、全体に紹介しほめることで、他の児童の気づきに広がりや深まりを持たせたい。	実物投影機
	5 教師の気づきを聞く。 3つの視点で振り返りを発表する。	○児童の気づきをまとめ、次時の意欲につながるような言葉かけをする。(Iメッセージ) ○本時の振り返りを書き、発表する。	

※本単元における児童の姿の例

○ 学習活動を進んでいき、適切な方法で表現している児童の姿（学習上の自立）

絵本を見せながら読み聞かせをすると、新1年生も楽しめるかな。



お家の人にもインタビューすると、もっとできるようになったことが見つかるかもしれないね。

6年生には、1年生を迎える会でメダルをもらったから、今度は私達が作ってプレゼントしよう。

〇〇さんのアイデアとってもいいね。それも、大作戦の中に入れようか。

私達ができるようになったことを、授業参観でお家の人に見てもらおう。感謝のお手紙を書いたらどうかな。

○ 自らよりよい生活を創り出していこうとしている児童の姿（生活上の自立）

新1年生には、優しく話しかけることができたよ。



登下校で、いろんな人があいさつしてくれたから、

私も、だんだんと自分からあいさつできるようになったよ。

6年生には、たくさん優しくしてもらったので、お礼の手紙をあげたよ。

近所の幼稚園の人に小学校の様子を教えてあげたよ。

登校班の班長さんに、いつもお世話してくれてありがとうと伝えたよ。

○ 自分のよさに気付き、前向きに生活していこうとする児童の姿（精神的な自立）

1年間で、いろんなことができるようになったよ。



新1年生に喜んでもらうことができたね。次は6年生にも喜んでもらおう。

2年生になるのが楽しみだね。新1年生が入学してきたら、いろいろお手伝いしてあげたいな。

6年生になったら、ぼくも下の学年の人に喜んでもらえるようにいろんなことができるようになりたいな。

新1年生を安全に学校まで連れて行ってあげたいな。